

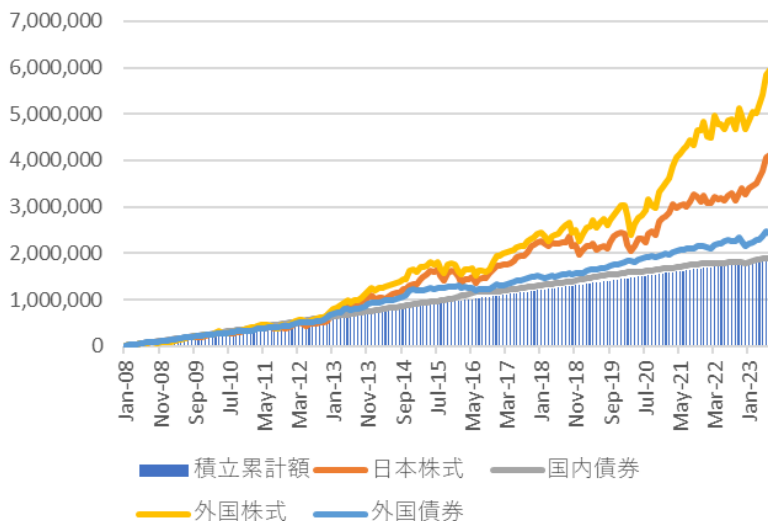
下図表は2008年1月から積立投資をした場合のシミュレーションです（MS社インデックスファンド基準価額データを利用）。図①は国内外の株式・債券の種類ごとの積立投資の推移を表しています。図②は外国株式ファンドと外国債券ファンドに積立投資をした場合の積立開始時期による成果の違いを表しています。この2つのグラフを見ると、確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切であることがわかります。

**投資期間に応じた資産配分：**積立期間が長い場合には株式の割合を多く、まとまった資金の受取予定が近い場合には株式の割合を少なくする

**大幅に値下がりした場合：**積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する

**長期継続する：**値動きや値動きを解説するニュースに惑わされず長期継続する

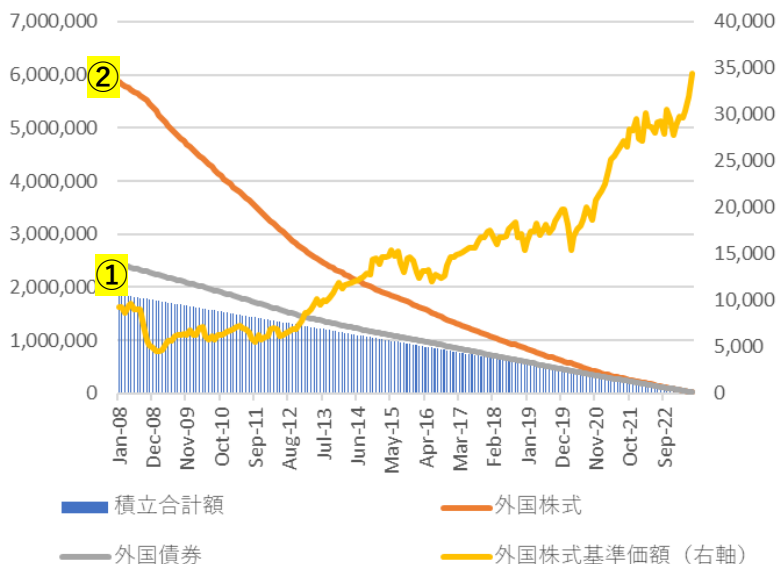
① アセットクラスごとの積立投資の推移



	May-23	Jun-23	Jul-23
積立累計額	1,850,000	1,860,000	1,870,000
日本株式	3,761,872	4,054,466	4,123,573
国内債券	1,881,271	1,895,388	1,875,428
外国株式	5,421,599	5,855,268	5,952,021
外国債券	2,366,853	2,470,083	2,425,807

2008年1月からの積立投資の推移です。株式は値動きは大きい一方値上がりも期待できません。債券は値動きは小さく値上がりも小さいことがわかります。従って長期の積立では株式をメインに、まとめて取崩す予定がある場合は株式の割合を少なくします。

② 積立開始時期ごとの積立合計と評価額



2008年1月に始めた積立投資の合計額①187万円（青棒）は2023年7月に②586万円（オレンジ線）3.13倍になりました。グラフの左の方は積立合計（青棒）に対して現在の評価額（オレンジ線）が大きく上の方に離れているのに対しグラフの右の方はその差が小さくなっています。つまり投資の成果は概ね積立期間に連動していると考えられます。

外国株式に10年（120万円）積立をした場合の最大値、最小値、平均値は下表のようになりました。

最大	2,640,931	2012年1月 ~ 2021年12月
最小	1,747,373	2010年4月 ~ 2020年3月
平均	2,274,688	データ数：68

## NYダウ平均株価13連騰！

	日経平均		NYダウ		ドル円
May-23	30,887.88	7.04%	32,908.27	-3.49%	139.34
Jun-23	33,189.04	7.45%	34,407.60	4.56%	144.27
Jul-23	33,172.22	-0.05%	35,559.53	3.35%	142.32

7月のNY株式市場は、金利の引き上げが終わりに近づきつつあるとの見通しや景気的大幅な落ち込みは回避できるのでは、との期待から10日から26日まで36年ぶりの13連騰となりました。

7月末の終値でも35559.53ドルと史上最高値の96%の水準まで回復しました。

ただし、中国経済が不動産を中心に失速していること、半導体セクターの業績の落ち込み、米国での医療用クレジットの負債拡大、米国地銀の経営不安など懸念材料も多くあります。

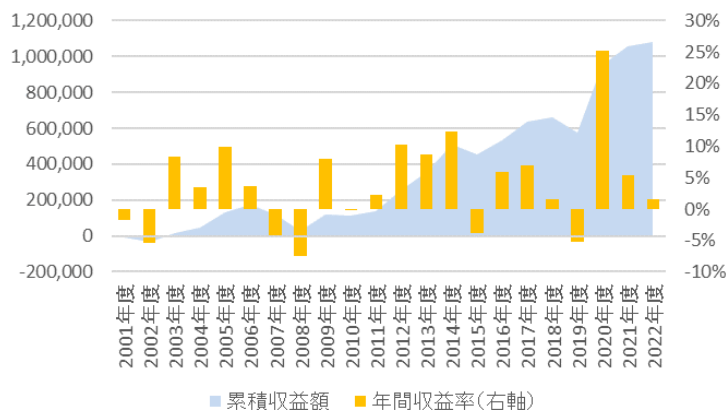
信用不安につながるような出来事があると株価は大きく調整することもあります。長期の積立投資では値動きに惑わされずに継続することが大切です。

## 公的年金の運用状況を確認しよう！

先月、年金積立金管理運用独立行政法人（以下GPIF）は私たちの年金積立金の運用状況報告にあたる「2022年度 業務概況書」を先月発表しました。

2022年度の収益率は、+1.50%、収益額は+2兆9536億円、運用資産額は200兆1328億円になりました。第一四半期から第三四半期まではインフレの進行とそれに伴う金利上昇によりマイナスでしたが第四四半期にはいるとFRBの利上げめどが意識され始めマーケットは堅調な動きになりました。

	第一四半期	第二四半期	第三四半期	第四四半期	年度
収益率	-1.91%	-0.88%	-0.97%	5.41%	1.50%
収益額	-37,501	-17,220	-18,530	102,788	29,536

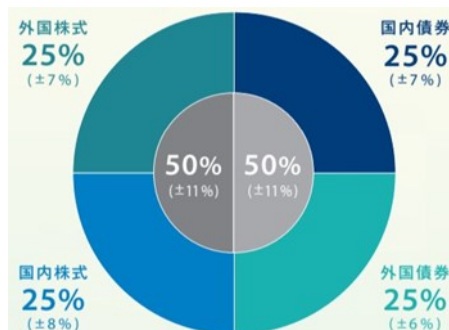


上図は2001年の市場運用開始以降の累積収益額（青）と年度ごとの収益率（オレンジ）を表しています。

単年度で見るとプラスだったりマイナスだったりしますが期間を延ばして長期的な目線でみると収益が積みあがっているのがわかります。私たちの積立投資と同じ考え方ですね。

年金積立金の、目標運用利回りは、「賃金上昇率+1.7%」を上回ることです。2001年以降の実績は3.59%なので堅調に運用ができていると考えてよいのでしょうか？

GPIFではこの目標をなるべく小さな値動きで達成するために下記の配分を基本ポートフォリオと定めています。



短期的な値動きに惑わされずに基本方針を維持して継続することの大切さがここでもわかりますね。

GPIFのホームページには年金積立金の運用実績や運用についての考え方などが詳しく書かれています。興味がある方は一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。

<https://www.gpif.go.jp/>